

## 「メンデルのブドウ」からワインができました

■ 邑田 仁 (植物園 教授)  
小石川植物園のいわゆる記念樹のひとつに「メンデルのブドウ」がある。これは、遺伝の法則の発見者として有名なメンデルがブドウの育種の研究を行なった、ブルノ(チェコ共和国)の修道院に残っていたブドウで、小石川植物園の第3代の園長をつとめた三好学博士が1914年にブルノを訪問した際にその苗の分譲を依頼した結果、翌年にシベリア鉄道経由で日本に送られてきた株である。園内では「ニュートンのリンゴ」と隣り合わせに、

棚作りで展示されている。その後、現地のメンデルブドウは第2次世界大戦後の混乱でなくなり、1997年に小石川の株から苗を4株作って送り返して復活したという経緯があり、現在では小石川植物園のものが本家となっている貴重な株である。この「メンデルのブドウ」や「ニュートンのリンゴ」は、科学の振興と啓蒙のため、全国各地の施設に分譲されてきたが、「メンデルのブドウ」の分譲先のひとつである大分農業文化公園(杵築市)が、大きく育った1株に稔った21キロのブドウを初めてワインに加工したということで、小石川植物園にもその一部が贈呈された。また、大分・チェコ友好協

会やチェコ大使館にも贈呈されたとのことである。今後も友好や啓蒙のために役立つと期待される。ちなみに、明治初期に小石川植物園に出仕して植物取調べを行ない「小石川植物園草木図説」(巻1は1881年出版)の共著者ともなった賀来飛霞は大分農業文化公園に程近い宇佐市安心院町が郷里であり、不思議な縁を感じる。



■「メンデルのワイン」

## 東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

(※)は原著が英文(和訳した題名を掲載)

種別	専攻	申請者名	論文題目
<b>2009年10月19日付学位授与者(1名)</b>			
課程	地惑	尾形 友道	インド洋-太平洋暖水域における海洋上層の季節内変動の経年変調(※)
<b>2009年10月30日付学位授与者(2名)</b>			
課程	地惑	山下 陽介	太陽11年周期変動に伴う成層圏大気の応答に関する研究
課程	生化	高山 順	線虫 <i>Caenorhabditis elegans</i> 味覚神経 ASE における左右非対称性の解析
<b>2009年11月16日付学位授与者(2名)</b>			
課程	地惑	川崎 高雄	千島列島周囲に局在化した鉛直混合が引き起こす太平洋熱塩循環(※)
課程	生化	廣瀬 恵一	胎児肝臓におけるヘッジホッグシグナルの機能解析
<b>2009年11月30日付学位授与者(1名)</b>			
課程	地惑	五藤 大輔	エアロゾル直接効果・間接効果の放射強制力に関する GCM モデル評価の改良(※)
<b>2009年12月14日付学位授与者(1名)</b>			
課程	地惑	磯崎 裕子	石英の ESR 信号強度と結晶化度によるタリム盆地起源風成塵およびその供給源の特徴づけと風成塵供給源の時代変動(※)

## 人事異動報告

異動年月日	所属	職名	氏名	異動事項	備考
2009.11.16	生化	講師	山下 朗	昇任	助教から
2009.11.16	化学	助教	近松 彰	採用	特任助教から
2009.12.1	物理	助教	鈴木 隆敏	採用	特任助教から
2009.12.1	物理	特任助教	掛下 照久	採用	
2009.12.1	広報室	特任専門職員	小野寺正明	採用	
2009.12.16	植物園	助教	角川 洋子	採用	
2009.12.31	物理	助教	今村 洋介	辞職	東京工業大学大学院理工学研究科准教授へ
2009.12.31	生化	特任助教	岡田 悟	辞職	
2010.1.1	地惑	助教	並木 敦子	採用	
2010.1.1	遺伝子	助教	富岡 征大	採用	特任助教から
2010.1.1	情報システム チーム	助教	下見淳一郎	採用	
2010.1.1	化学	特任助教	坂本 良太	採用	

## あ と が き

今号の「宝物」は、少し異色ですが、理学部1号館の壁(?)です。身近なところにも宝物があることを再認識させられる、おもしろい記事です。執筆者の大路樹生准教授からご寄稿をいただき、宝物にうってつけだとのことで掲載させていただきました。

さて、理学部ニュースの屋台骨を支え

てきた加藤千恵さんが今号で東京大学を去られることになりました。加藤さんのお力と熱意とで、この5年間滞りない発行を続けることができました。また記事や企画へのその率直な意見で、紙面をよりよいものにすることができましたと思います。ほぼ同時期からわたしも委員になりましたので、同級生を見送る気分です

が、新しい職場でもご活躍を。最後に、わたしも今回をもちましてひとまず委員を退かせていただきます。

今後の理学部ニュースの発展を期待しつつ、ではまた。

横山 央明(地球惑星科学専攻 准教授)

加藤職員の任期満了に伴い、12月より理学部ニュース担当として広報室に着任した小野寺と申します。

2010年度国家予算の「事業仕分け」という歴史的事件に遭遇し、横山広美准教授の広報戦術に、攻めの広報とはかくあるべきという姿を広報室の一角から垣間見ることができましたのは、私にとっ

て幸運でした。今後もどのような火の粉が本理学部に降りかかって来るやは神のみぞ知るですが、広報ツールの一つとして、理学部ニュースが防火壁として少しでもお役に立てたら最高ではないかと考える次第です。

また、制作担当としましては、不易流行の精神で理学部ニュースに関わってい

きたいと存じます。古き良き伝統を守りながらも、読者の皆さまによりいっそうアピールできる形に表現できるよう努めて参る所存です。

読者の皆さまのご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

小野寺正明(広報室)

この2010年1月号は私が編集に携わる最後の号となりました。と申しましたが、執筆依頼までですが。執筆依頼は、一見すると機械的なものに思われがちですが、お願いする記事の趣旨、長さ、脱稿期限などを適確にお伝えし、確実に書いていただく必要があります。したがって1件ごとに気を配る必要があります。ここにかかなりの労力を注ぎました。執筆依頼

は理学部ニュースの内容を良くするために大切な作業です。もちろん編集委員の先生方が厳選なさった内容ですので、良いものに違いないのですが。

その執筆依頼をしていた昨年11月頃は科学技術予算の事業仕分けがたけなわで、小柴ホールでノーベル賞受賞者の先生方の講演も行われていました。仕分けの結果、若手支援、科研費、運営費交付

金などは大きな影響を受けることをまぬかれたと聞き、安心しました。資源が乏しい日本の国は、科学技術がひじょうに重要と存じます。そのためにも理学系研究科の今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。

加藤 千恵(庶務係)

第41巻5号

発行日：2010年1月20日

発行：東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

編集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会 (e-mail: rigaku-news@adm.s.u-tokyo.ac.jp)

牧島 一夫(物理学専攻) maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

広報・科学コミュニケーション：

横山 央明(地球惑星科学専攻) yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp

横山 広美 yokoyama@sp.s.u-tokyo.ac.jp

野崎 久義(生物科学専攻) nozaki@biol.s.u-tokyo.ac.jp

HP担当：

島田 敏宏(化学専攻) shimada@chem.s.u-tokyo.ac.jp

柴田 有(情報システムチーム) yuu@adm.s.u-tokyo.ac.jp

斉藤 直樹(庶務係) nsaito@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン：

小野寺正明(広報室) onodera@adm.s.u-tokyo.ac.jp

大島 智(情報システムチーム) satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

加藤 千恵(庶務係)

印刷・・・三鈴印刷株式会社